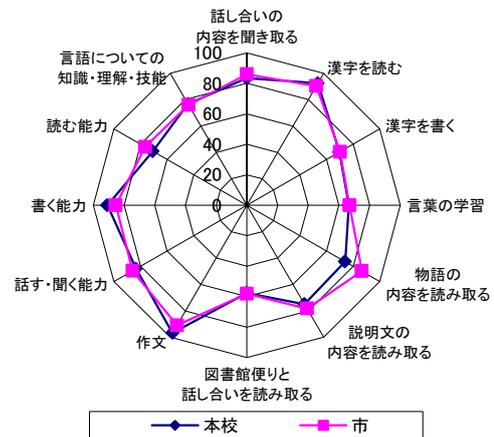


宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | |
|--------|-----------------|------|------|
| | | 本校 | 市 |
| 問題の内容別 | 話し合いの内容を聞き取る | 83.3 | 85.9 |
| | 漢字を読む | 92.4 | 90.4 |
| | 漢字を書く | 69.6 | 70.1 |
| | 言葉の学習 | 66.3 | 66.9 |
| | 物語の内容を読み取る | 73.9 | 86.5 |
| | 説明文の内容を読み取る | 75.0 | 78.4 |
| | 図書館便りと話し合いを読み取る | 57.6 | 58.1 |
| | 作文 | 96.7 | 91.0 |
| 観点別 | 話す・聞く能力 | 83.3 | 85.9 |
| | 書く能力 | 90.9 | 85.4 |
| | 読む能力 | 70.8 | 76.6 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 76.7 | 76.0 |
| | | | |



★指導の工夫と改善

| 問題の内容 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-----------------|---|---|
| 話し合いの内容を聞き取る | ・話の内容を聞き取り理解することはできているが、話し手の意図を理解し、その話し方の工夫について考えることができていなかった。 | ・自分の考えを話すときに、最初に自分の立場を明らかにしてから、次に理由を述べるといった話し方等のスキルについて、再度確認し、授業中の発言等についても、相手に意図を伝えるための話し方の工夫について考えながら発言できるよう指導していきたい。 |
| 漢字 | ・6学年になってから学習した漢字の読みについては、正答率が100%となっている。しかし、5学年で学習した漢字を書く問題の正答率が低く市の平均を大きく下回った。特に「判断する」という漢字は5割しか書けていなかった。 | ・5学年で学習した漢字を、再度、宿題や朝の学習等で扱い、練習させるとともに、定着を図っていきたい。 |
| 言葉の学習 | ・俳句・尊敬語に関する問題は、正答率が市の平均を上回っている。しかし、熟語の構成については解答にばらつきがあり、よく理解できていないことがわかる。また、敬語の中でも、謙譲語については日常生活の中でも馴染みがないことから、しっかり理解されていないことが正答率の低さからわかる。「食べる」の謙譲語を正しく書けた児童は43%しかいなかった。 | ・熟語の構成については、教科書でも学習したが、定着していないのが実態である。再度、教科書で確認するとともに、日常的に熟語の成り立ちに目を向けさせ、どのような構成になっているのかを理解させていきたい。 ・敬語については、復習が必要である。宿題プリント等で繰り返し出題することで定着を図っていくとともに、日常生活の中でも敬語を使える場面では言い直しをさせるなどして、敬語を使う場を設けていきたい。 |
| 物語の内容を読み取る | ・全ての問題において、市の平均を下回っている。3割の児童が、登場人物の様子や心情をきちんと読み取れていない状況である。解答の様子から、各問で何を問われているのかがきちんと理解できていないことも考えられる。 | ・朝の学習やパワーアップタイム等で、物語文を読んで問題に答えるといった形式のプリント学習を行い、登場人物の様子や心情がどのように表現されているかに注意して読んだり、問題が何を問っているのかをよく考えさせたりすることを通して、読む力をつけていきたい。 ・読書をしていない児童が多いので、本に親しむ機会がふえるよう宿題等でも工夫していきたい。 |
| 説明文の内容を読み取る | ・文と文のつながりを考えたり、段落のまとまりを考えて読んだりすることは市の平均より上回っている。しかし、説明文の内容そのものではなく、書かれている内容を日常生活にあてはめて考えるといった活用問題での正答率が43.5%と非常に低かった。 | ・正答率の低かった活用問題は、とても難しい。日頃から、物の見方や考え方を育てるような言葉かけや、学習したことを日常生活のいろいろな場面に置き換えて考えさせてみるような指導が必要になってくると思われる。 ・読み取りに関しては、これまで同様、言葉を大切に扱うとともに、段落のつながりを考えさせるような指導を続けていきたい。 |
| 図書館便りと話し合いを読み取る | ・資料に書かれていることを正しく読み取り、適切にまとめることに関しては市の平均を上回っている。しかし、2つの資料を関連付けて読み取る力が不十分であった。 | ・今回の問題では、図書委員の話し合いを読み取り、その内容を生かして、図書新聞をどう書き直したらよいか問う問題であった。図書委員の話し合いの内容について、よく理解できていないと正しく解答することはできない。文の内容が話し合いであることから、話し手の意図をきちんと理解する力が必要になってくると思われる。ふだんの学級での話し合いにおいても、友達の見解を話し手の意図を考えながら聞き理解することを、意識して指導していきたい。 |
| 作文 | ・指定された条件で文を書くことは、非常によくできており、市の平均を大きく上回っている。文章の書き方形式について、字数の足りなかった児童、2段落構成ができなかった児童が数名いるが、内容に関しては、全員が自分の意見とその理由をきちんと書くことができた。 | ・授業の中で、根拠を明らかにして自分の考えを書く活動は、折に触れて行ってきた。書くことには、抵抗を示さない児童が多い。今後も、継続して指導していきたい。 |